

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第1回武蔵村山市介護保険運営協議会
開 催 日 時	平成26年6月6日（金） 午後6時30分 ～8時15分
開 催 場 所	市民総合センター3階 小会議室
出席者及び 欠 席 者	出席者：田中（由）委員、安島委員、田中（富）委員、栗原委員、山岸委員、加園委員、石川委員、後藤委員、庄司委員、日高委員 高齡・障害担当部長、高齡福祉課長、介護認定・給付グループ主査、管理グループ主査、高齡福祉グループ主査、管理グループ主任 日本コンサルタントグループ主任研究員 欠席者：藤田委員 傍聴者：なし
議 題	市長による協議会への諮問 報告事項1 計画策定の趣旨について 報告事項2 計画策定に向けたアンケート調査報告書について 報告事項3 武蔵村山市の現状について 協議事項1 将来人口の予測及び要介護認定者数の推計について 協議事項2 新計画の構成について 協議事項3 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	開会 健康福祉部高齡・障害担当部長挨拶 市長による協議会への諮問 事務局紹介 会 長：今年も宜しく願います。欠員は1で、定足数に達しているので会議を行う。事務局より報告をお願いする。 【報告事項1 計画策定の趣旨について】 事務局：概要を説明 会 長：策定趣旨について質問・意見をお願いする。 委 員：第六期計画策定の1～5のポイントの説明を受けたが、給付の推計は平成37年まで見通すのか。 事務局：3カ年の事業計画の推計に加え平成37年度までの見込みを推計する。 委 員：推計を行うということで了解した。特に要支援1・2関連の地域支援事業については、国会で討議しているが、今後どうするのかをかなり討議する必要があると思う。 会 長：大幅な介護保険の改正がある。 事務局：細かい施策については国が示すガイドライン等を勘案し、考えていくことになる。 委 員：第5期介護保険事業計画があと1年残っているので、到達点を示

してほしい。

事務局：第2回目の運営協議会で示す予定。

【報告事項2 計画策定に向けたアンケート調査報告書について】

事務局：概要を説明

会 長：全体を数字を中心に報告してもらったが、事務局では特徴的なものは何ととらえているか。

事務局：住み慣れた地域で家族とともに過ごしたいといった希望が強く、ただ、介護が必要になったときは、施設等がなければ不安だということが表れていると思う。他市町村とは人口構成が異なる部分もあるが、市全体の傾向からみれば、概ね全国的な傾向と同様な結果と考えている。しかし、村山団地という大規模で高齢者が多い地域があるといった特徴もある。

委 員：このアンケート結果を反映させ介護保険事業計画を進めていくということか。アンケートの中にも、今は元気だが、将来はわからないといった不安があるように、特定高齢者や要支援の方の予防が重要であり、計画の中心的課題と考える。

事務局：計画の中にそれらを盛り込むのは前提である。

委 員：特徴として“介護保険について知りたい”といった意見が多く、介護保険制度をしっかりと周知していくことから始めないといけない。ほかに、認知症リスクにおいて北部地域の85歳以上で74.8%が該当ということには驚いた。かくれた認知症も含めしっかりと把握するべきと思った。

委 員：予防の話が出ていたが、介護保険事業の利用者の把握に加え、健康増進事業のデータを合わせて考えるべきと思う。同じ方が事業に参加したりなど、事業を進めるにあたって苦勞されていることもあり、例えば高血圧の割合が高く、認知症につながる可能性も高いので、市民の健康データ等も合わせて考えてみたい。また、人口動態統計からは、他の市に比べ武蔵村山市は若い世代が多い市であり、そうした世代を含め支えあい・見守りも考えていければよい。

委 員：主な介護者について、配偶者は本人と世代が一緒であり、また後期高齢者を介護している娘さんもけっこうなお年で、この数年で介護が必要となる可能性がある。武蔵村山市は家族と同居している割合が高いが、どのような家族構成なのかを見極めないといけない。今後、家族の介護が困難なケースも増加し、ヘルパーや施設が必要となる。NPO、ボランティアをどう育てて行くか、市民後見の支援者をボランティアに取り込むなど、人材等をどの程度増やしていくのが課題となる。

委 員：医療法の改正に伴う診療報酬の大幅な改定があり、入院期間の短縮傾向の中で、脳卒中で倒れても、在宅しか戻るところがないといったケースもあり、訪問看護ステーションなど在宅医療をどう見込むのか難しいと思う。今後、医療依存度の高い方が増えるといった状況への対応が課題と考える。

委 員：最終的にどのような介護者がでてくるのか、人口の推計も含め重要である。

会 長：団塊の世代が75歳以上となる平成35～37年、どの地域も今までとは異なり極端に高齢者が増えることを視野にいれ、37年をターゲットに入れ考えている。アンケートで驚いたのは訪問介護よりも通所の方が多いこと。かなり元気な人が利用しているのが多いのかと思った。サービスを利用している方はいろいろ知っているが、介護保険サービスを利用していない方へ、どう地域包括ケアと介護保険

制度等をお知らせするのかを、しっかり情報が行き届く方法を考える必要がある。予防から順番にということではなく一気に介護状態に進みサービスが必要になるといった傾向が将来的に増える不安である。予防も含めゆるやかにサービスが利用できるような高齢者になってもらう対策をねる必要がある。

委員：デイサービスにはいろいろな方はくるが、デイは送迎もあり家族は助かる。一人暮らしの人もヘルパーが朝、昼、晩に来るよりも、自分がデイに行く方が便利である。介護度 5 の人もいる。ヘルパーステーションが少ないといった傾向もあると考える。

委員：自由意見で、介護認定について厳しい結果となったなどがあり、介護認定にだれもが納得できるようになると良い。一人暮らしの方で介護 1 から要支援に落とされると、ヘルパーさんの回数が減るといったこともあり、人によっては大きな問題となることがある。介護認定区分が落ちたときのフォローが必要である。

委員：介護予防は市の地域支援事業へ降りてくる。在宅介護が重要となる中で、訪問介護の事業所が少ない。ヘルパーを希望する人は多いが、担い手（2 級ヘルパー）が不足している。しかしデイサービスは資格なしでも働くことができる。ヘルパー養成など介護人材を育てる施策を計画に入れていくべきである。

委員：ヘルパーを募集してもこない。ヘルパーさんが必要となっても、食事の時間など使いたい時間がブッキングしてしまうなどで不足がちとなる。デイサービスは行ってしまえば、そこで全部まかなえる点がある。

会長：人材不足は全国的であるが、専門学校にも高校生ではなく、ハローワークから賃金をもらいながらくるといった方がほとんどであるが、やはり足りない。市としての方向性として、ホームヘルプサービスの拡大は必要だが、うつ対策を含めデイサービスにどんどん出してもらうといった考え方もある。

事務局：養成研修という形ではないが、人材養成は考えていきたい。ヘルパーステーションが少ないので需要が少ないのか、それとも需要が少ないので事業所が少ないのかを見極めることが必要と考える。なお、通所介護は全国的にも大幅に増加している。

委員：デイは事業者としてやりやすい。しかし訪問介護事業のヘルパーは 2 級以上でないと派遣できない。ケアマネの話では少なからずヘルパーのニーズは高い。需要はあるが、ヘルパーが少なく、事業を立ち上げられないといった状況である。

会長：デイで外へ出してもらう。しかし老々介護であり、介護度 5 では、デイに出かけるためのヘルパーが必要。地域包括ケアの医療分野は検討していますか。

事務局：これから検討する。

委員：訪問看護もヘルパーと同じで担い手がない。診療報酬の改定もあり経営的に厳しいといった面があり機能強化型へシフトしていく方向もある。またターミナルケアとして 24 時間の展開などが課題となる。

会長：地域包括ケアの推進を考えると、介護保険のみで答えを出しても機能しなくなる。医療及び担い手の関係では市民参加など全体の横串の連携を検討する必要がある。他機関のつながりやどうつながるのかなどが重要。地域包括支援センターを現在の 4 つから長期的には中学校区の一つとして 5 に増やすなども考えられる。

委員：訪問介護とデイサービスどちらかということではなく、やはり併

	<p>用が必要。</p> <p>委員：デイ側でも送迎時のヘルパーさん送り出しはありがたい。</p> <p>委員：通所サービスが合わない方もいるので、自宅でヘルパーというのもちゃんと用意しておくことが必要。個人の意思の尊厳に合うようにする。また、通所していても寝るときにヘルパーが必要。</p> <p>委員：一戸建てが多く、ヘルパーの移動時間がかかり、自転車も無理。警察は駐車許可を出してくれるが。</p> <p>【報告事項 3 武蔵村山市の現状について】</p> <p>事務局：概要を説明</p> <p>【協議事項 1 将来人口の予測及び要介護認定者数の推計について】</p> <p>【協議事項 2 新計画の構成について】</p> <p>事務局：概要を説明</p> <p>委員：人口推計は5歳階級で実施するのか。少なくとも80歳以上は5歳階級で実施してほしい</p> <p>委員：総人口は増加としているが？</p> <p>事務局：若い方が多いので増加する傾向となるが、開発による増加要因は見込んではいない。</p> <p>委員：なぜ総人口が増加する傾向と見込むのかを教えてください。</p> <p>事務局：地価も下落し、三多摩に住めるようになった。</p> <p>委員：多摩地域は平成37年には頭打ちとなる予測されており、現在の7万程度が5.9万程度となることが推計されている。コーホート法による推計をしっかりとってほしい。</p>
--	--

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p>■公開 傍聴者： _____ 0人</p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="font-size: 2em;">()</p>
--------------------	--

<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等： _____)</p> <p><input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等： _____)</p>
---------------------	---

<p>庶務担当課</p>	<p>健康福祉部高齢福祉課（内線：632）</p>
--------------	---------------------------

（日本工業規格A列4番）